

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成21年7月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0290100106
法人名	社会福祉法人 青空会
事業所名	グループホーム青空倶楽部 奥野館
所在地	青森県青森市奥野2丁目27番10号 (電 話)017-763-4577
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年2月10日

【情報提供票より】(平成21年1月9日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年3月15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	5.2人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	3 階建ての	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 10,000～18,000 円他
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(平成21年1月9日現在)

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名
要介護1	0	名	要介護2	4	名
要介護3	3	名	要介護4	2	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢	平均 79.4 歳	最低	58 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	あおもり協立病院 ミナトや歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者、館長共に認知症介護に意欲的であり、「家庭と同じような生活環境を提供します」「安全に安心して日常生活を送れるように配慮します」「サービスとしての福祉・介護を追及します」の3つの約束を理念に、日々の生活の中で認知症介護の専門機関として職員一丸となってサービスに努めている。

また、ホームは交通の便もよく、買い物等に出かけやすい環境にあり、まさに本来のグループホームとしての役割を果たしており、取り組みも活気あるものとなっている。

アセスメントにより利用者の希望や力量を把握しており、手芸、絵画、書道、ダンス、映画鑑賞など一人ひとりにあった支援を促しており、一人ひとりが楽しめるように工夫している。

散歩やスーパーへの買い物、外食に出かけるなど日常的に外出し、気分転換できる機会を設けているほか、季節行事として、ぶどう狩りや花見、ドライブなどにも出掛けている。また、利用者の体調等に合わせた支援を行っている。

ホーム内は温かみのある木材を利用しており、家庭的な雰囲気となっている。また、職員が立てる物音や声、室内の明るさは適切であり、居心地の良い空間を確保できるよう工夫を行っている。

【特に改善が求められる点】

パンフレットを改定する際には、地域密着型サービスの役割も盛り込んだ内容となることに期待したい。

全職員が制度について理解することで、サービスの質の向上に繋がるので、内部、外部研修を実施することに期待したい。今回、社協で評価を実施しているので、職員を派遣してもらうなど、具体的に研修会の実施を検討してみてもどうか。

個人情報保護法について、外部の研修に参加したり、内部で検討を行うなどし、全職員が理解することに期待したい。

やむを得ず身体拘束を行う場合ややむを得ず施設する場合に備え、家族に十分に説明を行い同意を得る体制を整えることに期待したい。

災害時に備え、食料や飲料水、簡易トイレ、寒さをしのげる物品を用意することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の改善点については、理事長、管理者が計画策定を作成し、より良いサービスの提供に繋げるために取組みを行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が評価を実施する意義を理解し、日々の業務の中で実践している。自己評価は、職員全員が分担して取組み、理事長、管理者がとりまとめを行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町内会、民生委員、地域包括支援センター、住民、運営者、管理者、家族等で構成し、隔月開催しており、自己評価の結果や外部評価結果を報告し、情報交換を行っている。</p> <p>出された意見等は検討し、サービスの質の確保、向上に努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族が訪問する際は、管理者から利用者の状況報告する機会を設け、家族からの要望等を聞き、改善できるものは速やかに対応するよう努めている。また、苦情受付に関しては、重要事項説明書に明示、説明しているほか、玄関に掲示し継続的に家族が活用できるよう周知している。</p> <p>家族の面会時や毎月各個人向け便りを作成し、行事写真とともに、健康状態、受診状況、金銭管理の状況等の報告を行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時に挨拶を交わすなどして気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけを行っている。</p> <p>また、町内会に加入し、ホーム主催の夏祭りやクリスマス会等への参加を呼び掛けているほか、社協や高校生の職場体験、学生ボランティアの受け入れを行ったり、地域での清掃活動、介護予防講習に参加し、事業所の持つ専門性等を地域に還元している。</p>

【各領域の取組状況】

領 域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>法人が運営する3つのホームの共通理念として、利用者との3つの約束「家庭と同じような生活環境を提供します」「安全に安心して日常生活を送れるように配慮します」「サービスとしての福祉・介護を追求します」を掲げ、台所や、玄関に掲示し職員や家族の理解も得ている。</p> <p>契約時は、重要事項説明書をもとにホームの理念、方針を説明し、利用者や家族が不安にならないよう意見を引き出すように努めている。契約の改訂や退居の際には説明を行い同意を得ているほか、退居が決定した時は退居先の情報提供等を行うなどの支援をしている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者に徐々に馴染めるよう、入居前に面談やホーム見学、説明を十分に行い、利用者や家族が納得した上で入居できるよう努めている。</p> <p>利用者の意向をアセスメントで把握しており、職員は十分理解している。また、食事作り、裁縫、日曜大工、書道等の得意分野で力を発揮できるよう働きかけているほか、職員も教わりながら共に支え合って生活できるよう配慮している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>可能な限り利用者の意見を取り入れるよう努め、利用者の言葉をそのまま計画に記載し、それに沿った介護計画を策定している。また、担当者がケアの中で感じたことを基に、他の職員の気づきや意見、家族の意向を取り入れながら、介護計画を作成している。必要に応じて家族等からも情報収集し計画に反映させている。</p> <p>利用者や家族からのニーズに対応した支援を行い、ホームの車輛を利用し、希望する医療機関への受診や外出、買い物のほか、家族が宿泊を希望する際は寝具等の貸し出しを行うなど、柔軟な支援を行っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の希望を聞いたりアンケートを実施し苦手なもの等に配慮した献立を作成している。また、食事作りから後片付けまで利用者とともにやっているほか、3食とも職員が同席し、食べこぼしのサポートをさりげなく行いながら食事を楽しめるよう工夫している。</p> <p>食器、箸、洗面具、位牌、仏壇、小タンス、TV、ラジオなど使い慣れたものを持ち込んでおり、自宅と変わらない雰囲気作りを行っている。また、家具等の配置等については、一人ひとりの意向に合わせて職員と共に行い、居心地よく過ごせるよう居室作りを行っている。</p>

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員が地域密着型サービスの役割を理解し、事業所独自の理念である3つの約束「家庭と同じような生活環境を提供します。」「安全に安心して日常生活を送れるように配慮します。」「サービスとしての福祉・介護を追及します。」を掲げているが、地域との関わりを示すまでには至っていない。	○	パンフレットを改定する際には、地域密着型サービスの役割も盛り込んだ内容となることに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を台所や玄関に掲示し、月一回の職員会議、ケアプラン作成時にも確認することで、全職員に周知している。また、職員は理念に基づき、日々のサービス提供場面に反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	当ホームは、移転して2年目であり、散歩時に挨拶を交わすなどして気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけを行っている。また、町内会に加入し、ホーム主催の夏祭りやクリスマス会等への参加を呼び掛けているほか、社協や高校生の職場体験、学生ボランティアの受け入れを行ったり、地域での清掃活動、介護予防講習に参加し、事業所の持つ専門性等を地域に還元している。外部の人を受け入れる際は利用者のプライバシーに十分配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価を実施する意義を理解し、日々の業務の中で実践している。自己評価は、職員全員が分担して取り組み、理事長、管理者がとりまとめを行っているほか、前回の評価の改善点については、理事長、管理者が計画策定を作成し、より良いサービスの提供に繋げるために取り組みを行っている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会、民生委員、地域包括支援センター、住民、運営者、管理者、家族等で構成し、隔月開催しており、自己評価の結果や外部評価結果を報告し、情報交換を行っている。出された意見等は検討し、サービスの質の確保、向上に努めている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自己評価や外部評価の結果、運営推進会議の内容を報告し、機関紙等も届けている。また、地域包括支援センター職員が運営推進会議のメンバーとなっているため、連携を十分図っている。なお、去年は市からの訪問指導もあり、助言のあった内容については、検討の上、改善に努めている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が受講して全職員に資料を配布しているが、研修等は実施していないため、全職員が理解するまでには至っていない。また、対応の必要性は感じているが、利用者や家族に情報提供や事業の利用に繋げる取り組みは行っていない。	○	全職員が制度について理解することで、サービスの質の向上に繋がるので、内部、外部研修を実施する事に期待したい。今回、社協で評価を実施しているのので、職員を派遣してもらうなど、具体的に研修会の実施を検討してみてもどうか。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関係については、職員の多くが直接研修を受けており、マニュアルも整備し十分理解している。これまで事例はないが、発見時の対応については、理解している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書をもとにホームの理念、方針を説明し、利用者や家族が不安にならないよう意見を引き出すように努めている。契約の改訂や退居の際には説明を行い同意を得ているほか、退居が決定した時は退居先の情報提供等を行うなどの支援をしている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や毎月各個人向け便りを作成し、行事写真とともに、健康状態、受診状況、金銭管理の状況等の報告を行っている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問する際は、管理者から利用者の状況報告する機会を設け、家族からの要望等を聞き、改善できるものは速やかに対応するよう努めている。また、苦情受付に関しては、重要事項説明書に明示、説明しているほか、玄関に掲示し継続的に家族が活用できるよう周知している。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間は職員の異動は行っていないが、新人職員や職員の配置換えを行う際は、利用者が慣れるまで業務を一緒に行って引き継ぎをし、異動等による利用者へのダメージを最小限に防ぐよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で年間研修計画を作成し、勤務体制に配慮し職員を研修会に参加させているほか、年4回法人合同研修会を実施している。また、研修終了後は、報告書を作成し、伝達研修を行うことで職員の質の確保、向上に努めている。職員の業務に関する相談や助言を法人理事や管理者が行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国、県、地域グループホーム協会に加盟し、情報を得ているほか、できる限り職員を交互に参加させ、研修を通じて交流や連携が図れるよう配慮している。また、運営者はサービスの向上、職員育成を目的に、県内関係者への啓発のフォーラム開催を企画、実施するなど積極的な取り組みを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者に徐々に馴染めるよう、入居前に面談やホーム見学、説明を十分に行い、利用者や家族が納得した上で入居できるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の意向をアセスメントで把握しており、職員は十分理解している。また、食事作り、裁縫、日曜大工、書道等の得意分野で力を発揮できるよう働きかけているほか、職員も教わりながら共に支え合って生活できるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向等はアセスメントで把握しており、会議等で話し合いを行い職員は十分理解している。利用者の行動や言動などを注意して観察し、家族等との連携を図りながら、必要に応じて検討し、再アセスメントを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	可能な限り利用者の意見を取り入れるよう努め、利用者の言葉をそのまま計画に記載し、それに沿った介護計画を策定している。また、担当者がケアの中で感じたことを基に、他の職員の気づきや意見、家族の意向を取り入れながら、介護計画を作成している。必要に応じて家族等からも情報収集し計画に反映させている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を明示しており、定期的に見直しを行っている。また、状態や希望に変化が生じた場合は、随時見直しを行っており、可能な限り利用者の意向に沿った支援を行えるよう、再アセスメントを行っている。さらに、月1回の職員会議で検討会を行い、常に利用者や家族等の要望等に変化がないか観察している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族からのニーズに対応した支援を行い、ホームの車輛を利用し、希望する医療機関への受診や外出、買い物のほか、家族が宿泊を希望する際は寝具等の貸し出しを行うなど、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関への受診を支援しているほか、協力医療機関の医師が月2回の往診を行っており、体調の変化や心配ごとがある時は気軽に相談できる体制が整っている。体調の変化が見られた時は、電話や面会時に家族へ報告し共有できるようにしている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対応しており、医療機関と連携し、看取り指針を作成している。また、利用者や家族に説明し同意を得ているほか、状況変化がある場合は、随時、話し合いを行い対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は傾聴する姿勢でケアを行っているほか、声かけ等の接し方は常識的で適切である。また、利用者の羞恥心やプライバシーに配慮したケアを行っている。利用者の個人情報等は事務室内に保管し、人目の付くところには置いていないが、個人情報保護法について、全職員が理解するまでには至っていない。	○	個人情報保護法について、外部の研修に参加したり、内部で検討を行うなどし、全職員が理解することに期待したい。
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先という姿勢でケアを実践しており、利用者の言動を急かしたりせず、その日の希望や身体・精神状況により、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞いたりアンケートを実施し苦手なもの等に配慮した献立を作成している。また、食事作りから後片付けまで利用者とともにやっているほか、3食とも職員が同席し、食べこぼしのサポートをさりげなく行いながら食事を楽しめるよう工夫している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	アセスメント等で入浴習慣を把握しており、入浴時間や入浴方法は利用者の意向に沿った支援をしているほか、羞恥心に配慮し同性介助を行っている。入浴を拒否する場合は無理強いせず、時間等を変更したり、清拭や足浴を行うなど工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントにより利用者の希望や力量を把握しており、手芸、絵画、書道、ダンス、映画鑑賞など一人ひとりにあった支援を促しており、一人ひとりが楽しめるように工夫している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やスーパーへの買い物、外食に出かけるなど日常的に外出し、気分転換できる機会を設けているほか、季節行事として、ぶどう狩りや花見、ドライブなどにも出掛けしている。また、利用者の体調等に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないことという姿勢でサービス提供しており、理解している。また、やむを得ず身体拘束を行う場合の対応マニュアルを作成し職員は理解しているが、家族に説明を行い同意を得る体制を整えるまでには至っていない。	○	やむを得ず身体拘束を行う場合について、家族に十分に説明を行い同意を得る体制を整えることに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠をしない取り組みを行っている。利用者の外出傾向を察知した時は付き添い等を行うほか、センサーで外出が分かるよう工夫している。また、無断外出時に備え、近隣住民や駐在所から協力が得られるよう働きかけを行っているが、やむを得ず施錠する場合について、家族に説明を行い同意を得るまでには至っていない。	○	感染症等が発生した場合など、やむを得ず施錠する場合に備え家族に説明を行い同意を得る体制を整えることに期待したい。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	夜間を想定した避難誘導策や連絡網を作成している。年4回避難器具の点検や利用者と一緒に避難訓練を行っている。災害発生時に備え、近隣やアパートの住民、警察署、消防署からの協力が得られる体制を整えているが、非常災害用品を準備するまでには至っていない。	○	災害時に備え、食料や飲料水、簡易トイレ、寒さをしのげる物品を用意することに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、栄養士が作成し栄養バランスに配慮したものとなっている。総カロリー、水分量をそれぞれ1,500kcal、1,000mlと把握しており、摂取量を記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルを作成し、保健所に相談やアドバイスを受けながら、必要に応じて見直しを行っている。感染症に関する情報を玄関に張り、うがいや消毒液等を備え付け周知を図っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は温かみのある木材を利用しており、家庭的な雰囲気となっている。また、職員が立てる物音や声、室内の明るさは適切であり、居心地の良い空間を確保できるよう工夫を行っている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器、箸、洗面具、位牌、仏壇、小タンス、TV、ラジオなど使い慣れたものを持ち込んでおり、自宅と変わらない雰囲気作りを行っている。また、家具等の配置等については、一人ひとりの意向に合わせて職員と共に行い、居心地よく過ごせるよ居室作りを行っている。		

※ は、重点項目。